

市民みんなに知ってほしい

坂戸に陸軍飛行場があった事実を

西坂戸 大山 茂

安倍政権は改造内閣を発足させましたが、憲法9条に自衛隊を明記することに執念を持っています。参議院選挙では改憲勢力は3分の2を割り込みました。にもかかわらず、「憲法改正についての議論」をしようと野党の切り崩しを図ってきています。9条改悪を阻止しようという勢力が力を合わせ、「9条守れ！」の声を大きく広げていかなければなりません。

九条の会さかどによる、10月19日(土曜日)の「坂戸の戦跡めぐり」はとても重要な時機に開催されます。

良質な畑作地が一夜のうちに強制収用され、対ソ戦に備えた陸軍飛行場が建設されたこと。戦後しばらくの間、巨大な格納庫が残されていました。朝鮮戦争が激化している最中に、米軍の通信基地にされようとした時、開拓農民の団結により米軍基地化を阻止したという貴重な経過もあります。

10月19日、坂戸中央公民館に集い、陸軍坂戸飛行場の歴史的背景を学び、弾薬庫跡などを訪ねましょう。

米軍基地化を阻止した歴史からも学び、憲法9条改悪を阻む力を広げていきましょう。大勢の市民に参加していただけるよう呼びかけましょう。まわりの皆さんを誘うことから始めましょう。

フロアの若者からの発言も多く中身の濃い企画になりました。

午後には特別企画として「被爆者のお話を聴く」「平和紙芝居」などを催しましたが、3つ目の企画として、昨年に引き続き「ヒロシマに学ぶ埼玉子ども代表团」に小学生の世話係ボランティアとして随行してくれた市内在住大学生の報告を聴きました。

もちろん、会場の設営・撤収作業も、若い力のおかげで、今までの半分以下の時間で完了することができました。

昨年度の坂戸市「少年の主張」大会では、浅羽野中学校3年(当時)の日下歩美さんが「あの夏の記憶」というテーマでこの原爆絵画展を紹介し、中学校の部で最優秀賞を受賞されました。ご本人、ご家族の承諾を得て、今年のチラシの裏面に印刷して配布、市内小中学校児童・生徒のみなさんに読んでいただくことができました。



私は「ここに希望がある」と感じます(原爆絵画展のホームページ <https://sakado-gr.org/kaigaten>)

若者への期待

ヒロシマ市民の描いた原爆絵画展
実行委員会 事務局 武井 誠

8月24日、25日に開催された「第27回原爆絵画展」は2日間で昨年を上回る279人の方にごらんいただくことができました。今年度の特徴は、若者たちの大活躍でした。

25日午前には「トークタイム『若者が考える原爆』」を開催、18歳から21歳の高校生、大学生(2人)、社会人、そして司会の私(武井)を含む5人でパネルディスカッションを行ないました。「絵画展の感想」「戦争はなぜ起こるか」「私たちのやるべきことは」などを交流、

沖縄県民 一步も引かず

キャンプシュワブゲート前
テント村スタッフ 斎藤美紀子

沖縄は、140年前までは、琉球王国という独立国でした。明治政府によって武力で併合され、日本の一部にされました。太平洋戦争の末期、本土決戦を先延ばしする捨て石として、住民の4人に一人という甚大な犠牲を強いられました。そして上陸した米軍によって、9割もの住民が1~2年もの間収容所に押し込められ、無人となった集落に米軍基地が作られました。

本土も米軍の占領下に置かれていましたが、土地や家を奪われることはなく、本土の米軍基地は国有地に作ら

坂戸の戦跡めぐり

日時 10月19日(土曜日) 13時30分~16時
集合 坂戸中央公民館2階和室(解散も)
内容 弾薬庫や被爆アオギリ、陸軍の標石、ペトンなど、市役所周辺の陸軍坂戸飛行場の戦跡を歩きます

れました。本土で日本国憲法が施行され、戦後復興が進む一方、沖縄の人々は、無憲法・無国籍の状態に置かれ続けました。本土で基地反対運動が高まると、日米両政府は、無権利状態の沖縄に次々と基地を移転しました。その結果、米軍基地の70%以上が狭い沖縄に集中し、基地の島にされてしまいました。

なぜ辺野古に新基地が作られようとしているのか。きっかけは、1995年に起きた小学生の少女に対する米軍兵士のレイプ事件でした。50年もの長い間、米軍や兵士による犯罪にずっと苦しめられてきた県民が、「もう我慢ならん！」と立ち上がり、8万5千人もの大集会で抗議の声をあげました。

おとなしい県民だと甘くみてきた日米両政府は、あわててSACO(沖縄に関する特別行動委員会)という会議を開き、沖縄の負担を全国で分かち合うと話し合いました。ところが、結論では、「普天間飛行場は返還する。でも移設先は沖縄に」というありえないものでした。

そもそも普天間飛行場は74年前に作られた老朽化した滑走路1本の基地です。その移設先とされた辺野古新基地は、滑走路2本、巨大軍艦やタンカーが接岸できる大きな軍港と弾薬庫などを新たに備えたデラックスな基地です。

しかも、辺野古新基地ができて、3千メートル級の滑走路がほかに用意できないなら普天間飛行場は返還されないと、防衛大臣が国会で発言しています。

そもそも普天間飛行場は海兵隊の基地で、海兵隊は



現代の戦争ではほとんど出番のないお荷物的存在で、沖縄の部隊もグアムにほとんど移転して沖縄には2~3千人しか残らないという計画になっています。

それなのに、活断層の存在が指摘され、60メートルもの厚さの軟弱地盤に2兆5千億円もの税金を注ぎ込んで、県民の重ね重ねの反対の民意を蹴散らして工事を進める政府に対して、私たちは黙っているわけにはいきませんよね。

沖縄県民は、政府の「そこまでやるのか！」という、違法・無法のやり方にも一歩も引かず、毎日抗議を続けています。大雨の日も、猛暑の日も諦めることなく頑張っています。本土の私たちが、沖縄の人たちに70年以上も米軍基地を押し付け、苦しめてきた事実を受け止め、共に闘っていきましょう。

14周年のつどいの感想から(3)

◆ 日本の今の政権は嘘ばかりでひどいと思っていましたが、本日の3人の話を聞くと、それがいたるところに広まっていて、戦争をする国へとぐんぐん進められていることがわかって恐ろしくなりました。

沖縄の辺野古基地の反対への取り組みを実際にかかわっている方から伺い、反対をする人々への国からの痛めつけのひどさに日本政府はどうしようもないという思いを新たにしました。7月の参院選によって現政権を終わりにしなければと思います。(新井竹子)

◆ いつ聞いても、沖縄の事態はひどいと思いました。入間基地も、自衛隊がアメリカと一体となって(アメリカの指揮の下)海外での活動ができる態勢を作っているその一環であることがよくわかりました。大本の安倍政権の支配を終わらせることが益々重要とあらためて決意しました。まず地元の運動をがんばります。(所沢市 大山茂樹)

◆ 所沢の通信基地は、敵の攻撃目標そのもの！ 各団体・党派・労組が一体となって反対運動に取り組んでいるのが素晴らしい。少しずつ返還の実績を積み上げてきた。

入間基地は単なる拡張ではなく、日米統合の目的として進められている。実際、日米統合訓練(実動演習)が行なわれている。既に着々と進められていることが、市民の反対運動の中で明らかになってきた。

◆ 所沢の国立リハビリテーションセンター病院に通ったことがあるので、防衛医大病院があるのは知っていたが、その奥に今でも基地が残っているのは知らなかった。ましてや入間に自衛隊基地！

どこかで聞いたことがあるような気もするが、具体的には全く知らなかった。この二つを知っただけでも、参加して良かったと思う。

語り継ぐ会の感想から(1)

◆ 戸来さんは、長い間障害児の教育にあたってこられたから、認知症の母親に接することにも、心のこもったやり方をして日常を過ごされた姿がよくわかり良かったです。

動画にされていて本人の声も聞けたのも良かったです。お母さんが体験を元にして「世界の平和」を望んでいる姿が印象的です。

本人の体験でなくても、その子たちが引き継ぐ活動の資料にもなる、良いお話でした。(新井竹子)

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

10月24日、11月28日、12月26日(第4木曜日10時~12時)
会場は坂戸市役所に隣接した勤労女性センター談話室